

巷論

子どもたちにはいろいろな場面で、自分で決めさせる、選ばせることが大切だと考えています。それは、自分で選び、決めたことは自分の責任になるからです。子どもたちが「だって、お母さんが…」というセリフを聞くと「じゃあ僕は○○したかった」と言えはよかったのに、と僕は声を掛けます。子どもたちも分かっている、自分で決めた時は「だって…」とは言いません。いや言えないのです。お母さんやお父さん、先生のせいにはできなし、しないのです。だから幼稚園生活の中でも、自

分では選ばれるように心掛けています。例えばその方法が失敗すると分かっている、あえて見守ることが重要です。例えば失敗しても「ほら、やっぱり先生の言う通りにしなかったから失敗したんだ」とは言わず「一つ学んだね」という気

メ」と禁止ばかりにならないことに重点を置き、子どもたちにはいろいろなと感じて、知って気づいていてほしいと思っています。大人が先回りしすぎないように、子どもたちにも少しでも選ばせる、決めさせる場面を増やしていつ

自分で決めて選ばせる

子どもたちの失敗を大切に

持ちで支えてあげればよいのです。大事なことは、自分で体験して感じることを、つまり本当の意味で『わかる』ことです。幼稚園として子どもたちを危険から守り、安全面に配慮するのは当然です。その上で、「危ない」「ダメ

るかもしれませんが、この考えにはセットとなるものがあります。それは、大人たちがその失敗に対して指摘・批判ばかりしないことです。間違えたり、失敗したりした時、子どもたちの表情をよく見ていると「あ、しまった！」という顔をしているものです。「悪いことをした」と分かっていることが多いものです。そこでどうめをさすような「どうしてそんなことをした」という指摘や批判は、効果がありません。失敗や間違いが決して悪いのではないことを大人たちは教えていくことが実はとても大切なことです。（柿原 勝）

かきはら・まさる 釧路短期大学
附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園
連合会事務局長、釧路市在住

巷論 こうろん

大人にとつて、特にお母さん方にとつて子育てというのは、楽しいけど、やはり大変というのが率直な気持ちではないかと思えます。子どもがなかなかこちらの思い通りにいかない時は、「楽しいなんて思えない！」という方も正直いるのではないですか。

それを「え、このお母さんはひどい人だ」なんて全く思いません。逆に正直な方だと思います。と同時にきつと一生懸命な方だと思つたのです。そんなお母さん方にとつてよつに声を掛けることができた方がいいのだらうと考えました。結論

から言つと、悩みはそれぞれ違つたので無理にアドバイスをしよつとはせず、まずは話を聞くことに徹することだと思ひます。

話を聞くことに徹しながらも、助言を求める方にあえて言えることは、「子どもは育てるのではな

したり、考えたりする力を發揮し始めるので、育つ力を信じて大人は待つてあげたり、時々助けてあげたりするといふ姿勢に切り替えた方がよいといふ意味です。

精神科医の佐々木正美さんの本の中で『子どもに限らず、草花で

信頼で行動は変わる

子どもが育つ力を信じて

く、子どもは育つのです」。これは、人間の赤ちゃんは他の動物と違ひ1年間早く生まれてくると言われています。数年間は確かに「子どもは育てる」といふ言葉が当てはまりますが、3歳くらいになれば、子どもも自分でいろいろと試

も農作物でも、何でも育てることが上手な人は、待つことが上手な人だと思つ」といふ一文があります。実は、最近の子育てが大変なのは子どもが育つのを待つのではない、保護者が子どものことを全て行おつとする、つまり「子ども

を育てるのは私なの！」といふ姿勢が強過ぎるからなのかもしれない。全てを行おつとすれば、いづかその責任の重さに保護者はつぶれてしまいます。そんな保護者にいろいろと指示されたり、注意されたりするのは、子どもの方だつてとてもつらいのです。

人は信頼されているを感じる。人は信頼されているを感じる。と自然と行動が変わつていきます。「この人僕のことを大切に思つてくれている。信じてくれている」と分かるとハチャメチャなことはしなくなります。子どもの育つ力を信じてあげることが子育ての柱だと思つたのです。(柿原 勝) かきはら・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



空港にある「子どもの広場」で感じたことについて書きます。羽

田空港に、子どもたちが遊べるキッズルームが備わっている飲食店があります。小さな子にとって、人ごみの中で待ち続けるのは大変なことです。たくさん荷物を抱えた保護者にとっても、この飲食店は子どもたちを少しでも伸び伸びさせることができるので、かなり人気があり、ひっきりなしにお客がやってきていました。

自分の子が、ほかの子ともたと一緒に遊んでいた時のことです。うちの子が勝手に転んで泣い

た瞬間、一緒に遊んでいた子のお母さんが食べるのを止めて飛んできました。「すみません！もしかして家の子が悪いことをしたのではないでしょうか？ごめんなさい」と言いに来たのです。

「いや、うちの子が勝手に転ん

この姿は、特殊な姿では決してありません。どうも伸び伸び自由に遊んでいるのは子どもたちだけで、大人はその間もヒヤヒヤし続けているといった感じでした。このような状況では、お母さん方は気疲れしてしまいます。

子どもを伸び伸び育てる

お互いさまの環境の中で

で泣いているだけです。お兄ちゃんは今仲良く遊んでくれているので逆に助かっています」と答えると「それならいいのですが…」と少し安心して、自分の息子に「気をつけて遊んでね！」と念を押してからまた食事に戻っていました。

「日本は子育てがとても難しくなった」と、精神科医の佐々木正美さんが書いています。よくテレビで子育てについてアドバイスをしている教育学者の汐見稔幸先生も、同じような見解を述べています。子どもは、けがをするもので

す。ましてや集団で遊べば、遊具の奪い合いなどで衝突が起きるものなのです。それが自然です。それを見守る大人たちは、そのことをしっかりと踏まえていなければいけないと改めて思っています。

しばらくそこで遊びながら様子を見ていたのですが、ここ一番という時にはきちんと注意して、それ以外は自由にさせているといったとても素晴らしい接し方をしているお母さんやお父さんもいて感じしました。『子どもはお互いさまという環境の中で育つ』ということを考えて多くの方に知ってほしいと考えています。(柿原 勝) かきはつ・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長

巷論 こうろん

数年前、子どもたちの生活リズム（食べる・遊ぶ・寝る）について、釧路短期大学の学生が幼稚園・保育園の保護者に協力していただきアンケートをとりました。その報告会に同席させてもらった際に改めて感じたことがありました。

世間では、一般的に朝食を食べていない子が多いと言われていますが、母親たちはなんとか朝ご飯を食べせようと努力していること。ゲームなどで遊んでいる子が確かに多いことが分かりましたが、時間を決めてい

る方がほとんどであったこと。寝ることに關しては、早寝早起きを実行しようとしている方が多いということが分かりました。これら三つは、生活リズムの基本となるのは間違いありません。子どもたちにとって、生

活リズムがつくと気持ちの面でもとても安定してきます。何とかしようと思っているのですが、実際は「なかなかうまくいきません」と嘆いている方の声をよく耳にします。

現代の母親たちの苦悩という

幼児の生活リズムを整える

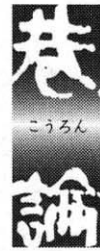
まず体を使って遊ぶこと

に大変なようです。テレビゲームよりも体を使った遊びを本当はさせたいし、望んでいるのです。多くの子を持つているゲームを全面的に否定するのも難しい環境にあつてとても悩まれているのです。

具体的な策としては、「子どもにとつて、遊ぶことがスタートである」という考えにまず立ちます。体を使って遊ぶことは、純粹に楽しいことなのです。遊び自体が楽しみなのです。体を使って遊んだ子どもたちは、自然とおなかがすいてきます。おなかがすいた時に食べるご飯はおいしいですから、食も進みます。たくさん遊び、食べると人は自然と眠くなるものです。遊びをスタート地点にすると「食べる・遊ぶ・寝る」の三つが良い循環になるといっわけです。

（柿原 勝）

かきはら・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



子どもたちを取り巻く環境が本当に大きく変わったと思います。その変化によって、お母さん方の負担はどんどん大きくなり、『子育ては大変なもの』というイメージが、先行しているように感じます。実は子育ては楽しい、子どもと関わることは喜ぶのだと思ってもらえるには、どのようなことに力を入れていくことが良いのか考えましたが、どうも「これだ！」という解決策は浮かびません。間違いないことは、母親を安易に責めても根本的な解決にはならない

ということ、子どもたちを責めても意味が無いということです。そんなある日、春休みで娘を連れて遊学館で一緒に過ごした時に「これがきっかけとなる一つだ」という出来事がありました。遊学館にはいろいろな遊具があ

ると、別な子が娘にボールをぶつけたのです。うちの娘はボールが当たったので、泣きそうになりましたが、こんなことはこれからたくさんあることです。当たった子の保護者は「ごめんね」といって何度も謝り、

お互いさまの発想を

親の一言で雰囲気変わる

ります。子どもたちは興味を持つた所で自由に遊んでいます。ボールプールと言って、プラスチックのボールがたくさん入っているプールに興味を示したうちの娘が、足をバタバタさせたりして楽しんでいました。す

とても心配そうにしていました。が、「このくらい大丈夫だもんね」と当たった相手に僕が声を掛けると、その子も保護者も安心したようでした。その後娘はすぐに元に戻り遊んでいました。危険が多くなったので、子ど

もたち同士で遊ばなくなった現代社会は、どうしても大人がその姿を見守る場面が増えてきました。大人たちも知らなければ気がしなかったことも、見えてしまったことで、どうも流せないようです。でも今回のように、大人が「大丈夫だもんね」と言っているだけでは、うまくいくこともたくさんあるのです。もちろん何でもかんでも見て見ぬふりをしたほうが良いとは言いませんが、小さなことは気にしない、お互いさまの発想がやはり大切なのだと思います。

(柿原 勝)

かきはら・まさる 釧路短期
大学附属幼稚園園長、釧路市
私立幼稚園連合会事務局長



保育を考える際に、「楽しい」「面白い」をとっても大切にしています。「楽しければなんでもあり」なんてそんな乱暴な考え方は無論していませんが、意欲や気持ちなどを考慮することが重要なことと位置付けています。

楽しい遊び・面白い遊びを行うと子どもたちはその遊びに参加したいので、「先生、入れて」とやってきます。次に「どんなルール？」と聞いてくるので説明します。自分から入ってきたので、気持ちは前向きです。ですからルールの説明を聞く時も

集中して聞いているのです。さらにルールが分かり、その遊びを深く楽しめるといい良いサイクルがここに生まれるのです。遊びを楽しめると、友達との関わりも自然と広がっていくものです。また、説明をきちんと

す。幼稚園のように集団で絵本を読む場合、中には絵本を見ることに慣れていない子が数名います。慣れていないから、先生が絵本を読み始めると静かに見ていることができないことがあるのです。まだ絵本の楽しさを

楽しいから話を聞く

大切なことが身につく図式

聞いていたことも褒めることができますから、今後も説明を聞くこととする習慣がつかます。このように良いことがたくさん増えてくるのです。

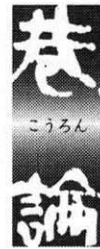
これは遊びだけでなく、絵本を読む場合にも当てはまりま

知らないから、静かにすることができないのかもしれない。そんな子たちに「静かにしない」とか「ちゃんと見なさい」と注意をしても、うまくいかないものです。普段から絵本を見ることに慣れていない子ども

もたちが夢中になれるような、楽しくてインパクトのある絵本を意図的に選んで読むのです。

すると「面白い！」と絵本に夢中になります。そして翌日の絵本の時間になると「昨日みたいに面白い絵本かもしれない」と期待しているので集中して見るのです。よく見ているから絵本の内容も分かり、より楽しさを知ることになるのです。「楽しい」「面白い」を入り口にすると、子どもたちにとって大切な（人の話を聞く）ことが自然と身につくのです。（柿原 勝）

かきはら・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



現代社会の子どもたちのいろいろな問題を考えた際に、その解決の一つに、「ありのままを受け入れよう」、「そのままでいいんだよ」という全面を容するという考え方・姿勢があると思つています。

子どもたちにとって、無条件の愛情ほど、安心できるものはありません。良い子じゃなくても、何かが上手にできなくても、まずはその存在を認めてもらえたり、受け入れてもらえることで、「どうせ僕なんか…」という気持ちになりにくくなるので

す。実際、幼稚園現場でも、子供たちに対して、何か悪いことをした際は、「○○君が悪いのではなく、その行動をした○○君は悪いと思う」という言い方をします。人格を否定するよ

うな言い方はしないよう意識します。お母さんはちゃんと子どもを待っているのをよく見掛けま

母親が注ぐ無条件の愛

子どもの見守りは大切だが

ています。

受け止めや、見守りが大切なことが広まっているのを感じる

と同時に心配もあります。それはお母さんたちのことです。

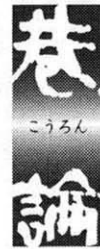
お母さんだつて忙しいのに、子どもの気持ちをくんで一緒に

を待っているのです。素晴らしいのです。でもその後、2度目の声を掛けた時、「さっき約束したでしょ！なら一人ですつと遊んでなさい」と急に怒つてしまつたのです。この声掛けを聞いた時に、1度目の時に帰れば

良かったのに…と思つたのです。受け止めや見守りは大切です。でももっと大切なのは長く続けることです。ですから、お母さんたちには、「自分の中でゆとりや余裕がない時は、無理をしないこと。少し待つて怒つてしまつていいなら、『ごめんね。お母さん、今日は忙しいから帰りたいの』と正直に言つて1回目の時に帰つた方がいいですよ」とアドバイスしています。

子どもたちとの関わりで重要なのは、ゆつくりでいいから長く続けられる道を選ぶことだと思つています。(柿原勝)

かきはら・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



釧路市内には26園の私立幼稚園があります。その26園で形成されているのが『釧路市私立幼稚園連合会』です。平成20年からその連合会の事務局長をさせていただいています。

その中で一番最初に取り組んだことは『幼稚園ガイド』の作成でした。釧路市は地理的に広く幼稚園の数が多いので、各園の情報が掲載されているものを作成する必要があると考えたからです。また「札幌・旭川・帯広には幼稚園ガイドがあるので、どうして釧路にはないので

すか？」という質問を受けたことも大きな理由でした。

全園の協力の下、毎年内容を更新して無料で配布しています。24年度版のガイドも、7月から市役所・保健部・子育て支援拠点センターで配布を始めて支援拠点センターで配布を始

広報誌の名は『うみぞら通信』

私立幼稚園連合会の活動

広報誌「うみぞら」に込めた思い

めています。また、釧路に転勤してくる方のことも考えると、冊子だけではなくインターネットが有効と考えてホームページの作成にも取り組みました。

同時に毎月広報誌を出すことにしました。われわれは釧路市

から補助金を頂いている団体です。活動内容を第三者にも分かるように明文化することは当然です。この広報誌は過去の分もホームページから閲覧できるようにになっています。

広報誌の名は『うみぞら通信』

です。名前にはさまざまな思いを込めました。一つ目は「釧路の空は海のように青く、広く、大きい」という思い、二つ目は「海と空はどちらもどこまでもつながっている」という思い、三つ目は「子どもたちを海や空

のよう大きな気持ちで見守ってきたい」という思いです。

広報誌にも思いを込めたように『つながり』や『連携』という考えを意識して活動しています。幼児教育の重要性を考え、場合、子どもを中心にいろいろな機関とつながることが必須です。家庭・小学校・医療機関・行政などと連携をとっていくことで、子どもたちのことをいろいろな角度から見るができるからです。幼稚園で見せる姿だけが、決してその子の全てではないという謙虚な姿勢が大切だと思っています。(柿原 勝) かきはら・まきる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長

巷論

釧路短期大学の幼児教育学科の学生に「保育方法論」という講義をさせてもらっています。その講義の教科書に選んだのが、詩人の相田みつをさんと精神科医の佐々木正美さんとのコラボレーションである「育てたように子は育つ」です。どうしてもこの本を教科書に選んだかというところ、保育に大切なのは「子どもたちが大好きである」という気持ちと、「集団生活でのポイント」という技術の二つのバランスが大切だと考えているからです。相田みつをさんの詩は

人間の心にあるものを端的に表現しています。その詩を基に、多くの子どもたちと接し、実践を積んできた佐々木正美さんが独自に解説をしているのです。実際に「子どもが好き」という人が、保育の世界に多く飛び

育てたように子は育つ

保育に大切な二つのバランス

込んできます。その気持ちはとても大切で必ず土台になると伝えていますが、「子どもが好き」というだけで他の努力をしなれば、残念ながらうまくいかないとも伝えています。技術だけでもダメだと伝えて

の二つがやはり重要なのです。さて、保育だけでなく最近の日本はいろいろな意味で極端でバランスの悪さを感じます。「詰め込み教育がダメ」だと批判されると今度は「ゆとり教育」へ、そして「ゆとり教育がダメ」だと批判が集まると、また急に授業時間を増やします。物事には必ず長所と短所があるものです。批判されたから変えるのではなく、変える時は何を理由に変えたのか、しっかりと信念を基に決めること、その説明をしていくことが大切だと思います。

(柿原 勝)

かきはつ・まさる 釧路短期大学附属幼稚園園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



ふぞく幼稚園では平成12年から祖父母交流会を年に数回行っています。この行事のきっかけは、平成10年に特別養護老人ホームとの交流会の際、「おじいちゃん、おばあちゃんが「こわい」と言った園児の言葉でした。正直ショックでした。「こわいと感じるような理由は何だろうか？」いろいろなと考えました。その結果、まずは自分・友達のおじいちゃん・おばあちゃんと一緒に幼稚園で遊ぶ、散歩に行くことから始めてみたのです。

この交流会には予想していな

かった出来事がありました。それには、おじいちゃん・おばあちゃんの心からの賞賛でした。いつものように歌って朝のあいさつをしたのです。職員、子どもたちにしてみたら、毎日の歌とあいさつですから特に意識した

びました。誰も知っている人はいませんから、初めのうちは緊張していますが、遊び始めるといつものような表情に戻り、最後には「またね」と言って帰っていくほです。これらの経験

ふぞく幼稚園では年4回の祖父母交流会と地域の老人クラブ・特別養護老人ホームとの交流会を行っています。この行事から「段階を踏まえることの大切さ」「子どもが見せる姿に対して、当たり前は無いのだという視点を持つこと」「表面上の交流会では意味がないこと」という、大切なことを改めて教わりました。敬老の日が近づいてきました。今は亡き自分の祖父母への感謝だけでなく、多くのおじいちゃん・おばあちゃんに感謝の気持ちを贈りたいです。

おばあちゃんがこわい

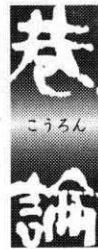
祖父母交流会で学んだこと

ものではありません。しかしここで大きな拍手が起きたのです。子どもたちは本当にうれしそうでした。僕も当たり前になつていたと反省したものです。

この交流を経験した後、今度は地域の老人クラブに行つて遊

かきはら・まさる 釧路短大附属幼稚園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長

(柿原 勝)



当園はよく園外保育に出掛けるのですが、公園に他の幼稚園や保育園の園児も来ていることがあります。その時の子どもたちの様子を見ていて、大人も見習うべき柔軟さを感じます。

まず、「どこの幼稚園？」と聞いてきて「○○幼稚園」と答えると「どこにあるの？」となり、「△△の近く」と答えると、「知ってるよ」と言っているいきなり一緒に遊び始めるのです。

そして虫を見つけたなら一緒に触ってみたり、踏みつけるまねをして楽しんでいま

す。もし、制服や帽子が同じだったなら、まさか違う幼稚園の友達と遊んでいるとは思えないくらいです。

われわれ大人たちは、いろいろと経験を積んできたから、失敗をしなかつたり、人との関わ

っている方が多いですが、本当は、大人は子どもから教わることに、正確に言つと思ひ出させてもらうことの方が多く僕は考えています。時には、今回の子どもたちのように気持ちをストリートにぶつけることの心地良

いの？」と言つて一緒に遊び始めるくらいです。

僕自身もつぎ4歳の娘の子育てをしている真つ最中ですが、子どもの姿から学ぶこと、教わること、思ひ出すこと、感動することがたくさんあります。何

子どもの姿から学ぶ

大人も見習うべき柔軟さ

りで失礼な態度をとらないのかもしれませんが、逆に慎重過ぎず、本音を見せず、本心を語らず、分かりづらい人間関係にしているように感じます。

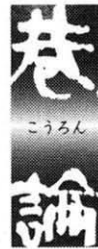
大人たちは子どもたちいろいろなことを教える立場だと思

さも思ひ出して人と接していくべきではないかと思つのです。

ふぞく幼稚園では、毎年近隣の保育園とサッカー交流会を行っています。1時間程度ですが、その短時間に子どもたちはお互いの名札を見て、「○○君つて

すぐに諦めることを覚えてしまった」と反省させられます。「失敗しても、うまくいかなくても、もっとやってみよう」とそんな気持ちになれるのは、実は娘のおかげなのです。(柿原 勝)

かきはら・まさる 釧路短大附属幼稚園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



10月9日(火)から釧路市内・

釧路町内の私立幼稚園の2013年度の入園受け付けが始まります。全ての幼稚園が9日では

ありませんが多くの幼稚園がこの日から行います。全国的な傾向として幼稚園選びが保護者の

重要な役目になっているのを感じます。もちろん大切なわが子

をより良い環境で過ごさせたいと願う気持ちは子どもを持つ親

としてよく分かるつもりです。

そんな大変な保護者の方の負担軽減に役立てばと思って、釧路市私立幼稚園連合会のホーム

ページを作ったり、ガイドブックを作成して、公共機関で無料配布しています。

そのような全体的な支援をしつつ、幼稚園選びのポイントについて相談を受けた場合、僕は次のようにお答えしています。

幼稚園選びのポイント

子育てで大切なことを整理

「入園前の見学などの段階で、全て希望通りの幼稚園はないかもしれない」と伝えます。その上で、「まずは保護者の方が、子育てで大切に考えていることを改めて整理してみてください」と言います。そのことと幼

稚園の教育方針が似ているところ、同じところをまず選ぶことを勧めるのです。伸び伸び遊ぶところ、礼儀作法を大切にしているところ、音楽に力を入れているところなど、それはさまざま

「入園前の見学などの段階で、そして何園か候補が決まったら、子どもを連れて一緒に行動を試みることを勧めます。やはり毎日通つのは子どもですから、子どもの気持ちもくんでほしい」と伝えます。ただし連れていく

／と子どもが言った時に「うーん、こはやめた方がいいよ」と言わないこと。つまり、保護者が納得しきれていない場合は、いくら周囲が騒いでいても、その見学に子どもを連れていかないことだと伝えます。その中で、保護者も、子どもも納得できるところがあれば、そこに通うのが良いと思つと伝えます。人と人が関わりながら、いろいろなことを身に付けていくのが幼稚園です。あら探的な発想ではない方が、より合つところが見つかると思つていきます。

(柿原 勝)

かきはら・まさる 釧路短大附属幼稚園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長



ふぞく幼稚園は子どもの『遊び』を応援する幼稚園という考えのもと、子どもと日々過ごすように心掛けています。

この『遊び』がポイントです。一般的には、『遊び』と『学び』を対極的な関係で捉えているように思います。「勉強が終わったら、遊んでもいいよ」とよく保護者の方が子どもに言っているのがまさにそれです。でも、幼児期の『遊び』というのは、『学び』とは対極ではなく、延長線上の関係であることを保育者はよく理解していないといけ

ないのです。幼稚園や保育園で遊んでいる活動というのは、遊びの活動の中に小学校の勉強と同じものが含まれているということ踏まえて子どもと関わるのが大切なのです。

子どもが砂場で泥水遊びをし

て、砂場に流しますが、「あつ」という間に水が消えます。その事に疑問を感じ「もう一回」となるわけです。そしてもう一回行くと、また水が消えるのを見て、「不思議だ」となるわけです。これは小学校の理科の実

「遊び」を応援する幼稚園

社会の仕組みや原理を理解

ている姿を例に挙げてみます。一般的な大人からみたら「楽しそうね」「子どもは何も考えずに、泥水遊びしていいわねえ」となりがちですが、子どもをよく観察していると、水をバケツに入れて砂場まで運び、その水

につながるのです。

遊びの奥深いところは、楽しいだけでなく、その遊びを通して色々な社会の仕組みや物事の原理が分かることなのです。ドリルを使って学ぶことを否定はしません、体を使って五感をフル稼働して遊びながら学ぶことの方が子どもの心に残ると僕は思っています。遊びの中に学びがあるということを知って子どもと接すると声掛けが変わります。そうすると学ぶ力はさらに広がるのです。これも遊びを応援するというふぞく幼稚園の大切な姿勢です。(柿原 勝) かきはら・まさる 釧路短大附属幼稚園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長

ころん

「自分でしなさい」とか「自分でやってみなさい」という声掛けをします。子どもはそれに対

して「できない」「分らない」と言う時がよくあります。それは言葉通りで「やりたくない」というわけでは決していないので

す。でも大人はそれを聞くと「太丈夫」「やってみたらできるから」という言葉を返しがちです。僕なりに子どもたちを観察していて気付いたのは、「できない」「分からない」というのは心配な要素がある時にこそ言つ

ていることが多いように感じます。その要素が取り除かれた時、大人が止めようとしても「自分でいたい」と強い意思表示をするように感じます。

しかし、子どもが「自分でしたい」と意志表示をした時に限

大人のお手伝いをする時があります。その時に「助かるわ」と一言お礼を述べるべき場面にもかかわらず、多くの大人は、「それはしなくていいの」とか

「邪魔しないの」と言うのです。
そう言うっておきながら、「ほら、

意欲を摘むことのないように

つて、大人は今度「危ない」とか「それはいいの！」という言葉を掛ける傾向にあります。確かに大人からしたら危なっかしいので、この一言が出がちです。

「お手伝いしなさい」とか「ちょっとは手伝ってよ」と子どもが遊んでいる時に声を掛けるのです。これでは子どもは困惑してしまします。

また、次のような場面もよく見掛けます。子どもが率先して

もちろん何でもかんでもさせ
てくださいなんて言っています

んが、子どもの言い分を代弁す

ると、「何だよ、自分でしなさい」

いと言ったからしているのに、

今度は危ないと言つてやめさせ

るなんて大人は本当に勝手た

「手位」に注意するから

手伍二のをやめたのに……」とい

意欲はいろいろな活動こつな

意谷にいらしたのを重く一か
 がるとても大切な気持ちです。

かゝるでも、マセが支持されて、少しづつ、いゝの失敗には、目を

ぶつて子どもの意欲を摘んでし

まづことのないように大人は心

掛けなくていけないと思うので

す。

(柿原 勝)

かきはら・まさる 釧路短

大附屬幼稚園長、釧路市私

立幼稚園連合会事務局長

巷論

保育者の仕事をさせてもらうようになって数十年が経過しました。まだまだ分からないことや勉強不足の現在ですが、子どもたちから教わっているところと考え方が変わってきたのも事実です。当初は「子どもと体を使っていたくさん遊ぶことが何より大切」と考えて、鬼ごっこをしたり、肩車をしたり、走り回って遊んでいることが多かったです。人気がある遊びを毎日のように行っていました。間違いないかもしれないませんが、今から考えると一方通行的なところ

が多かったと反省もします。

最近改めて思うのは、保育者の仕事って『子どもの育つ力を信じて支える、広げること』だと思つたのです。育つ力を信じて支える、広げるためには、子どもの気持ちに少しでも寄り添う

保育者の仕事とは？

遊びに子どもの意見を尊重

気持ちがないと成り立ちません。育つ力を信じるというのは、この子たちは何回も繰り返し取り組んでいくことで、自分でも見つけていくこと、自分でも見守る、待つことでもあります。

長く続くように感じます。

ふぞく幼稚園ではサッカーに人気があり毎日のように行っていますが、日本代表の試合の翌日に「先生、今日は黄色のユニホームを着ているからブラジル！」と言つと、「じゃあ僕は青だから日本」と言つて、いつも以上に盛り上がることはありません。試合の最後に、点数の結果発表だけでなく、今回の MVP といつて子どものナイスプレーを発表するところもうれしそうにしています。子どもの遊び同様、保育者の仕事も奥深いと感じる瞬間です。（柿原 勝）

かきはら・まさる 釧路短
大附属幼稚園長、釧路市私
立幼稚園連合会事務局長



鉋路にもいよいよ冬がやってきました。冬の到来は子どもにしてみたら「待ちに待った喜びの日」なのです。大人は「雪かき」「道路が混む」「道路が滑って怖い」と大変なイメージが多い冬ですが、子どもは本当にうれしそうです。

水たまりが凍った時なんて「先生、氷がある！」と言って外で氷を取って遊んでいます。霜柱が降った時も、その上をうれしそうに歩いて「ザクザク」という音を楽しんでいます。そんな時期の出来事です。本

格的な雪が降る前の子どもの手袋は、毛糸の手袋をはいている場合が多いのです。その手袋をしたままうれしそうに水たまりから氷をとって遊んでいます。大人はすぐにぬれて大変なことになるのが想像できます。だから

めは自信満々に「手袋しているから氷も平気！」といていたのが、時間が経って染みてくる「先生、寒いよ」と言ったら手袋を脱ぎたがります。脱いだ方が冷たくなるのに「先生、濡れたから手袋持ってきて！」と言っ

実際に体験して学ぶ

水たまりの氷を毛糸の手袋で

らついにぬれる前に「その手袋だと冷たくなるよ」と言いたくなります。私も昔はそう言っていました。でも最近は子どもに任せることにしています。

すると子どもは自分でいろいろなことに気づくのです。はじ

われて分かった気になるのではなく、実際に体験して実感することが幼児期にはとても大切なことだと考えています。

この話にはまだ続きがあつて、ナイロン製の手袋をしてきた子どもは「先生、今度はビニールの手袋だから大丈夫」と言つて氷水の中に躊躇せず突っ込むのです。しかし、しばらくすると水が染みてきて「先生やっぱり冷たい」と言つて脱いでしまつのです。このような体験をして、物の仕組みを理解していくのです。これこそが学びだと私は思っています。（柿原 勝）

かきはら・まさる 鉋路短
大附属幼稚園長、鉋路市私立幼稚園連合会事務局長



幼稚園の未就園児教室（さくらんぼクラブ）の際、遊戯室のステージにある3段階の高さが違う台からセーフティーマットにジャンプして遊んでいた時のことです。高い所も平気なある男の子は、うれしそうに何度も一番高い所から跳んで楽しんでいました。その姿を見た別な男の子もまねをしようとして、高い台に登ったまでは良かったのですが、いざジャンプをしようとしたら怖かったのか、やめて一番低い台から跳んでいました。どちらも楽しそうな姿が見ら

れてうれしく感じたのですが、その後には先ほどの二人とは別な子とその遊びに交さってきたのです。その子は、一番高い台から跳ぼうとしたのですが怖くて跳べませんでした。お母さんが手を差し伸べたのですが、やはり

両手を支えてみましたが、まだ怖いようです。「怖いけど、跳んでみたい」という気持ちが入り交じっている感じでした。後ろで待っている友達がいたので、せかしたくなるような場面ではありましたが、「その子が

見守る環境の大切さ

待つことで子どもを伸ばす

り怖くて跳べませんでした。そこで、中くらいの台へ移動して跳ぼうとしましたが、しつくりこなかったようでした。少し時間がたつてから、再度一番高い台からジャンプしようとしたのです。手を差し伸べて

いた保護者から大きな拍手が起きました。その子はうれしかったようで、その後も何度も跳んでいました。挑戦したその子の姿も素晴らしいですが、僕が感動したのは、それを見ていた保護者の方たちでした。「皆さんの温かい眼差しのおかげです」と伝えました。お母さん方の多くがそんなふうに見守ってくれると、後ろで待っている子どもも待てるものなのです。せかしたりするよりも、待つてあげた方が良い場合も間違いなくあるそんな出来事でした。（柿原 勝）

かきはら・まさる 釧路短大附属幼稚園長、釧路市私立幼稚園連合会事務局長